52 週スタディ

ウェストミンスター

小教理問答

巻頭言

教理教育は、21 世紀のキリスト者の正しい信仰のために、根本的であり必須的な知識です。

21 世紀を生きる私たちは、教会で、聖徒の霊的水準がとても低い状態であることを経験しています。信者に、救いを体験するために聖書の教理をどの程度知っていればよいのかを質問すると、衝撃的な答えをするなどします。実際に、三位一体教理を分からない場合もあって、なぜキリストが必要なのかすら答えられない場合も、簡単に見受けられます。彼らが持っている知識の水準を見ると、キリスト者と言えない時もあります。正に、宗教改革直前の教会状態がそうでした。聖書的救いについての知識がほとんどなくて、礼拝は迷信的になり、自分たちの想像の中にある偶像を聖書の神だと考えていました。しかし、今日にも、このような問題に私たちは直面しているのです。

このように教理に関する知識の水準が低ければ、霊的水準も低くなります。このような状態では、大部分が名ばかりのキリスト者、聖書的救いを体験できていない者が教会で多数を占めることになります。このような教会は、霊的力は勿論のこと、敬虔の力はありません。教会がこのように霊的に無知な時、偽りの教えや異端の教えはさらに猛威を振るい、偽りの霊的体験を助長する運動が流行るようになります。

教会がこのように敬虔の力を失って行く時に、宗教改革者たちは、先ず信仰において最も基本的な教えについて強調しました。キリストを信じるために根本的に必要な教えと、聖霊の御業による救いの体験について説明しました。マルチン・ルターは「小教理問答書」(1529) を作成して教会で使用させ、ジャン・カルヴァンは「キリスト教綱要」(1536－1559) と「ゼネバ教理問答書」(1542)

を作成して信者たちを教えました。1563 年には「ハイデルベルク教理問答書」が作成され、広く紹介されて用いられました。

教理問答書などは、信仰において最も基本的な知識の内容と範囲を語っています。このような目的によって、教理問答書は、使徒信条、十戒、主の祈りを共通的に扱います。それを詳しく調べてみると、使徒信条は、三位の神の贖いの働きを説明していて、十戒は救われた者が守るべき生活の指針であり、主の祈りは救われた者がどのように祈るべきなのかを語ってくれるものです。ひと言でいうと、教理問答書は、神がどのように救いの恵みをお与えになり、救われた者はどのように生きて行くべきなのかを説明しているものです。これは、キリスト者が知らなければならない最小限の知識です。しかし、今日の教会は霊的水準が低く、最小限の知識もないまま信者となっていますし、それどころか、神学者たちでも最小限の知識についてすら難しいと感じているのです。

「ウェストミンスター小教理問答」は、英国の下院が、牧会者と神学者たちを招集させて作成させました（1646-1647）。小教理問答を作成した目的は、家庭で父母が子供たちに、信仰において最も必要な最小限の知識を教えるようにさせ、それによって子供たちが救いの体験と敬虔な生活を生きるようにするためのでした。小教理問答を作成した当時の英国教会は、間違った教えが流行っていて、正しい信仰がますます侵食されて行って、儀式中心の英国国教会がますます政治的状況に走っていく状況だったのです。それで議会は、家庭から真の信仰教育が成されてこそ、英国が神の前に正しく立つことできると考え、小教理問答を作成したのでした。

「ウェストミンスター小教理問答」が作成されて 370 年が経った今日にも、やはり有用なのは、この文書が持っている特徴のためです。マルチン・ルター

や、ジャン・カルヴァンの教理問答書、また「ハイデルベルク教理問答書」は、神の贖いの御業と救いの民の義務を扱っている全体構造が「ウェストミンスター小教理問答」の構造と同じです。しかし、小教理問答では、贖いの計画と適用と有益などをより詳しく卓越して扱っています。また、その文書が作成される当時、道徳律廃棄論が流行っていたので、道徳法について詳しく扱っています。従って小教理問答は、21 世紀を生きている私たちに、正しい信仰のために最も根本的で必要な知識を提供するだけでなく、実際的に救いが起こるようにする聖霊の御業について体系的に説明をしていて、とても有用だと言えます。

筆者は清教徒神学を専攻して、その神学的有用性について研究する中で、小教理問答をより分かりやすく解説しました。教理問答の勉強が退屈で難しいという偏見をなくすために、聖書的で体験的な面を強調しながら叙述しました。さらに、教会で 52 週に分けて講論できるように、あるいは、聖書勉強の教材として使用できるように作りました。小教理問答の教理説明より最も重要なのは、聖書に記録された御言葉です。先ず、小教理問答の質問と答えを注意深く読んでください。その次に解説を読み、引用されている聖句を直接探し、その意味などをもう一度深く考えることは、この書を活用なさる良い方法になるでしょう。

筆者は、この書を通して、教理勉強は難しいという考えが、改革できることを願います。そして、真のキリスト者になるために、最も根本的で必須的な知識を獲得し、聖霊の御業によって救いの体験を確実に得られることに、この書が有用に用いられることを切に願います。

韓国清教徒研究書所長　　金洪晩教授（Ph.D.）